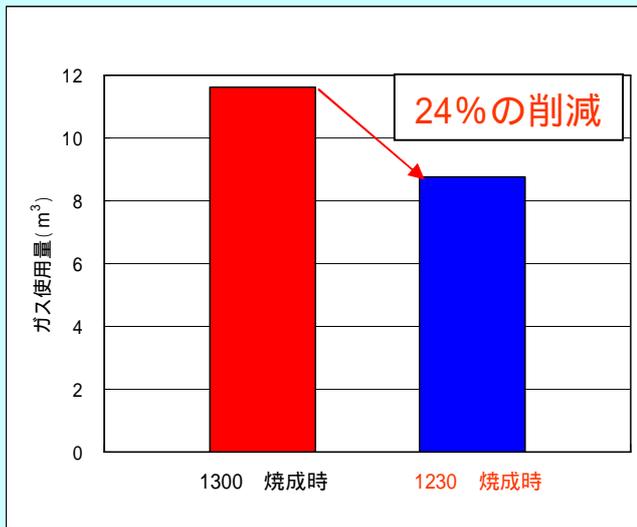


環境に配慮した砥部焼

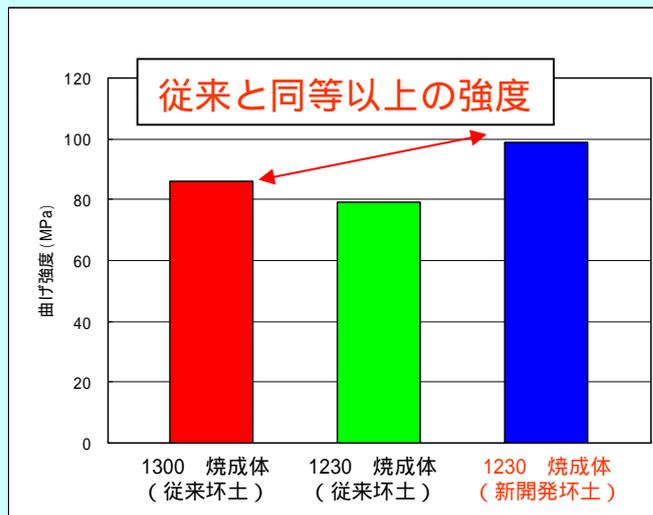
- 環境負荷低減型砥部焼開発研究 (H20~21) -

愛媛県産業技術研究所 窯業技術センター 主任研究員 大塚 和弘

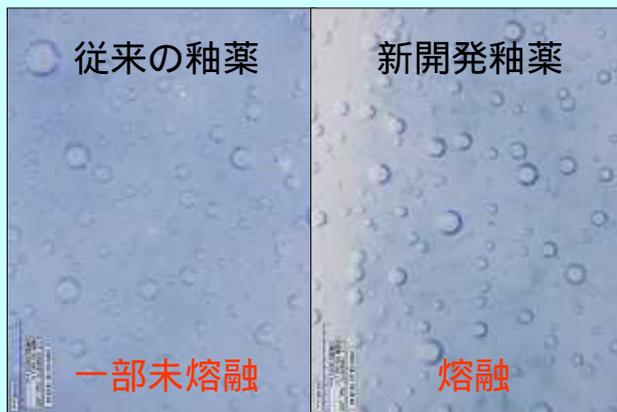
砥部焼の焼成時に使用するガス量及び焼成時に発生するCO₂排出量の削減を目的として、従来よりも低い温度で焼成可能な砥部焼の開発を行いました。



焼成時のガス使用量



各試験体の曲げ強度



釉薬の熔融状況 (1230 焼成)



試作品写真 (1230 焼成)

1230 で焼成を行うことが可能な、新たな砥部焼を開発しました。新開発品は従来の1300 焼成時に比べて24%の焼成用ガス燃料を削減でき、その強度も従来品を上回るものとなりました。今後は、1200 での焼成を可能とすることによって、焼成用ガス燃料を3割削減した「環境負荷低減型砥部焼」の開発を目指します。

本研究は、環境負荷低減型砥部焼開発研究費により実施しました。